



JACP
Japanese Association for Community Pharmacy

地域連携薬局の認知度等に関する患者調査

JACP共同研究

○廣田 憲威¹⁾²⁾、末澤 克己¹⁾、吉岡 優子¹⁾

1)一般社団法人 日本コミュニティファーマシー協会 2)一般社団法人 大阪ファルマプラン 社会薬学研究所

【研究の背景と目的】

日本コミュニティファーマシー協会(JACP)は、2019年7月に会員薬局を対象に、健康サポート薬局に関する調査を実施した。その背景には、「患者のための薬局ビジョン」(2015年10月)では、2025年の地域包括ケアシステムの本格実施までには、全国の中学校区(約1万ヶ所)中に最低1ヶ所の健康サポート薬局の整備することが目標とされたが、2019年2月当時は未だ1,275ヶ所という状況であり、健康サポート薬局に対する患者の認知度も21.7%という結果を得た¹⁾。

2021年8月から制度化された認定薬局の中でも「かかりつけ機能」と「入退院や在宅医療に他医療提供施設と連携して対応できる機能」を有する薬局として地域連携薬局があるが、2024年7月時点で4,327ヶ所と目標(中学校区に最低1ヶ所以上)の半分にも達していない。また、地域連携薬局に対する患者の認知度等の調査も実施されていない。

そこで今回、JACP会員薬局を利用する患者を対象に、地域連携薬局の認知度や薬局の機能についてアンケート調査を実施することで、地域連携薬局に関する問題点や課題の検討を試みた。

【結果① アンケート調査の依頼数と同意率】

- ・調査協力薬局数:145薬局
- ・アンケート用紙配布人数:1,762人 ・「同意あり」:1,672人(同意率:94.9%)
- ・1薬局当たりの調査数:11.5±7.8(最少:1、最大:40)

【結果② 回答者の性別・年齢構成・職業】

- ・性別 男性:625人(37.4%)、女性:1,017人(60.8%)、
 答えたくない:11人(0.7%)、未回答:19人(1.1%)
- ・年齢 70歳代(17.6%)、第2位:50歳代(17.0%)、第3位:60歳代(15.8%)
 60歳未満:55.0% 60歳以上:43.8%
- ・職業 会社員(42.7%)、無職(20.9%)、専業主婦(12.7%)

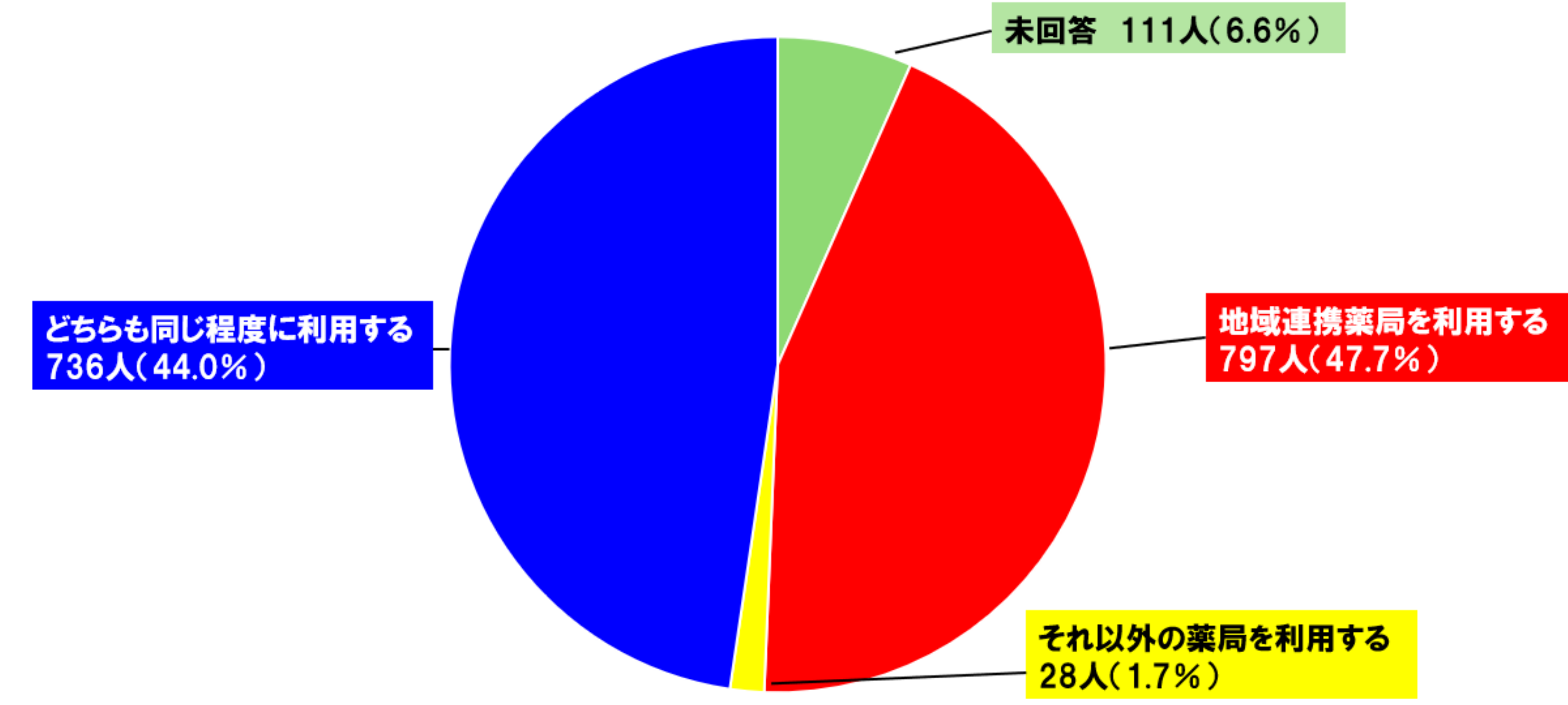
【結果③ 地域連携薬局の認知度(全体集計)】

- ・「聞いたことがある」:362人(21.7%) 「聞いたことがない」:1,294人(77.4%)
- 「地域連携薬局をどこで知りましたか?(複数回答)」 新聞・TV等のマスコミ報道:42.9%、現在利用している薬局が地域連携薬局:15.7%、家族・知人・友人:11.1%、
 かかりつけ薬剤師から:8.9%、薬剤師会からの案内:7.2%、自治体からの案内:5.5%

【結果④ 地域連携薬局の認知度(サブ解析)】

		聞いたことがある	聞いたことがない 未回答	p値
地域連携薬局	利用あり	82(18.0%)	374(82.0%)	0.0027
	利用なし	280(23.0%)	936(77.0%)	
健康サポート薬局	利用あり	67(16.5%)	338(83.5%)	0.0044
	利用なし	295(23.3%)	972(76.7%)	
地域支援体制加算 の薬局	利用あり	131(20.5%)	509(79.5%)	0.3600
	利用なし	231(22.4%)	801(77.6%)	
かかりつけ薬剤師	いる	54(26.5%)	150(73.5%)	0.0844
	いない	308(21.0%)	1,160(79.0%)	
性別	男性	114(18.2%)	511(81.8%)	0.0080
	女性	243(23.9%)	774(76.1%)	

【結果⑥ 地域連携薬局の利用希望】



【結果⑧ 当該薬局への処方箋の集中】

		処方箋の集中		p値
		あり	なし・未回答	
地域連携薬局	利用あり	204(44.7%)	252(55.3%)	0.0005
	利用なし	661(54.4%)	555(45.6%)	
健康サポート薬局	利用あり	187(46.2%)	218(53.8%)	0.0102
	利用なし	678(53.5%)	589(46.5%)	
地域支援体制加算 の薬局	利用あり	333(52.0%)	307(48.0%)	0.920
	利用なし	532(51.6%)	500(48.4%)	
かかりつけ薬剤師	いる	136(66.7%)	68(33.3%)	<0.0001
	いない	577(51.0%)	554(49.0%)	

【結果⑪ 薬局の24時間・365日営業の是非】

	回答者数(%)	
	365日営業	24時間営業
はい	721(43.1%)	434(26.0%)
いいえ	341(20.4%)	529(31.6%)
どちらとも言えない	495(29.6%)	592(35.4%)
未回答	115(6.9%)	117(7.0%)
合計	1,672(100.0%)	1,672(100.0%)

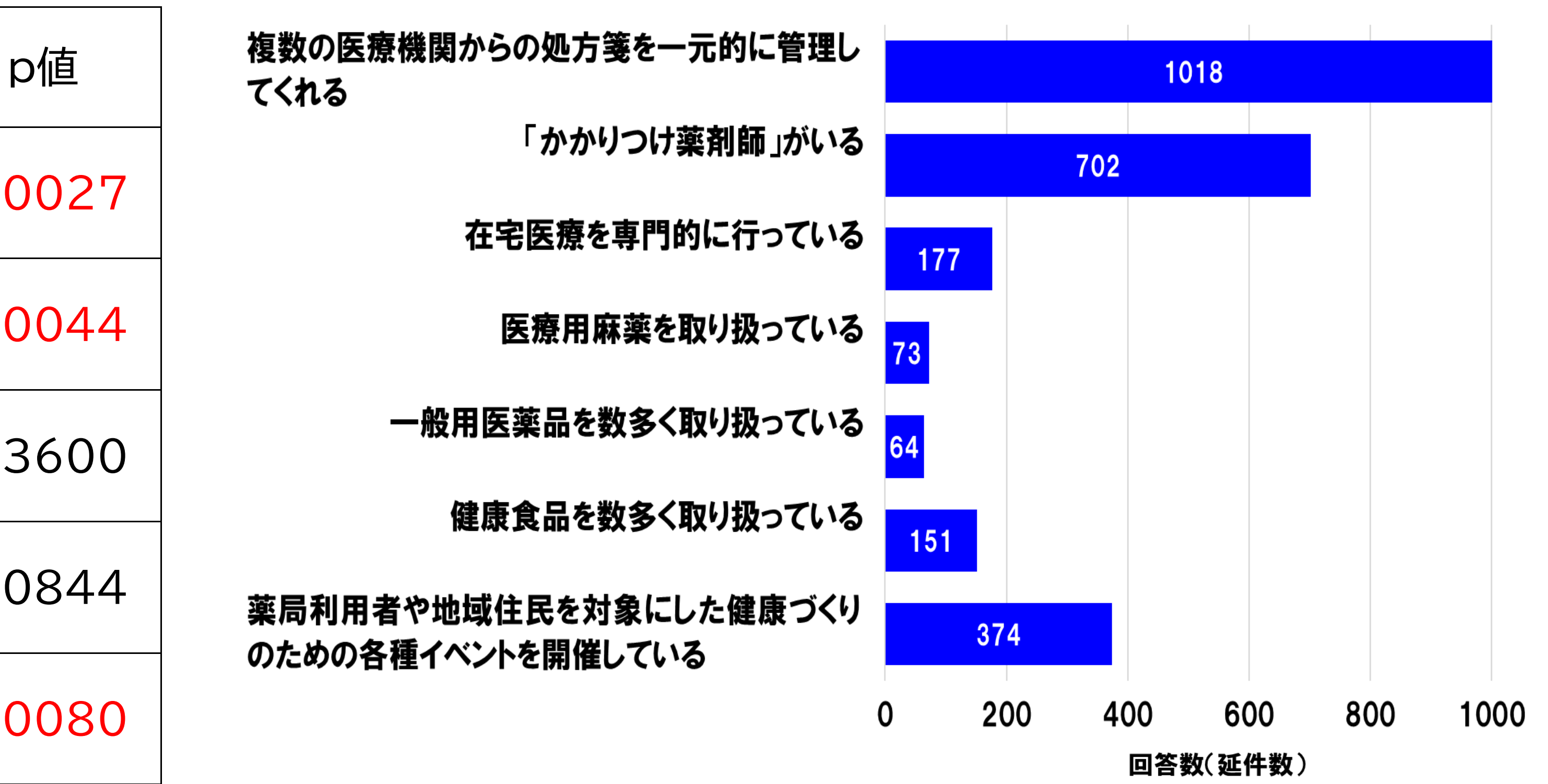
【まとめ】

- ・地域連携薬局の認知度が21.7%であったことに対する評価は難しいが、現状において行政(厚労省、自治体薬務課)や薬剤師会が積極的にTVや新聞等で地域連携薬局について広報していないことを考慮すると、必ずしも低いとは言えない可能性もある。
- ・地域連携薬局・健康サポート薬局・地域支援体制加算といった特別な機能を有している薬局を利用する患者において、地域連携薬局の認知度が統計学的に有意に悪い結果となった要因については、さらなる調査研究が求められるが、特別な機能を有する薬局においては、患者に対して地域連携薬局の知名度の向上をはじめとした薬局の機能をアピールする取組をさらに強めることが求められる。

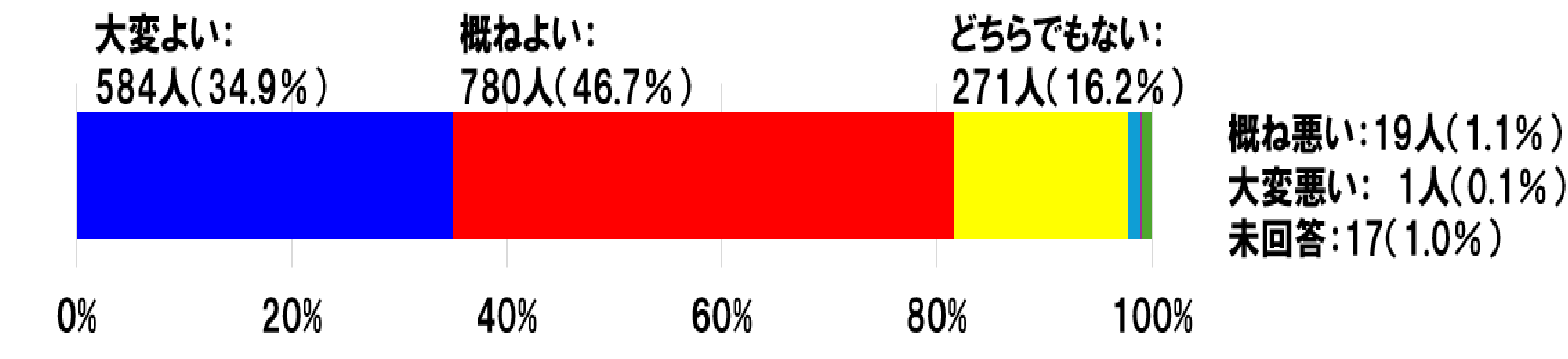
【研究の対象と方法】

- ・JACP会員法人(65社)が運営する保険薬局を日常的に利用されている成人患者を対象に、研究の主旨に対する同意を得た後に無記名によるアンケートを実施した。
- ・調査期間は、2024年9月1日から11月30日迄とした。
- ・各薬局における調査件数は、薬局のレセプト件数の約1%とした。
- ・調査項目は、①地域連携薬局の認知度、②地域連携薬局に対するイメージ、③薬局の満足度、④かかりつけ薬剤師の有無、⑤薬局の24時間・365日営業の是非。
- ・アンケート用紙を回収する際に、当該薬局が「健康サポート薬局」「地域連携薬局」「地域支援体制加算」の該当の有無も調査した。
- ・調査を実施するにあたり、JACP臨床・疫学研究倫理審査委員会の承認を得た(承認番号:202401)。

【結果⑤ 地域連携薬局の機能に対するイメージ(複数回答)】



【結果⑦ 利用している薬局の満足度】



	薬局の満足度	
薬局の取り組み(複数回答)	良い群	悪い群
薬剤師の説明	1,039(34.2%)	2(8.0%)
職員のマナー	734(24.1%)	2(8.0%)
薬局の環境	456(15.0%)	1(4.0%)
薬局の待ち時間	379(12.5%)	19(76.0%)
健康相談活動	132(4.3%)	0(0.0%)
一般用医薬品の品揃え	150(4.9%)	1(4.0%)
健康食品等の品揃え	68(2.2%)	0(0.0%)
未回答	82(2.7%)	—

【結果⑨ 処方箋調剤以外での薬局の利用】

- 利用したことがある:308人(18.4%) 利用したことが無い:1,227人(73.3%)
- 未回答:137人(8.2%)

【結果⑩ かかりつけ薬剤師の有無】

- いる :204人(12.3%)、いない :1,131人(67.6%)、わからない :240人(14.4%)、未回答:97人(5.8%)

【結果⑫ 地域連携薬局の認知度に影響を与える要因分析(ロジスティック回帰分析)】

説明変数	オッズ比	95%信頼区間	p値
健康サポート薬局	0.943	0.476~1.870	0.867
地域連携薬局	0.964	0.453~2.050	0.924
地域支援体制加算	1.130	0.627~2.030	0.685
性別	0.722	0.470~1.110	0.138
年齢(60歳以上)	1.710	1.030~2.840	0.037
仕事の有無(無職)	0.549	0.335~0.900	0.017
薬局の評価	3.570	0.964~13.20	0.057
処方箋集中(集中しない)	0.640	0.419~0.973	0.039
処方箋調剤以外での薬局利用	0.652	0.401~1.060	0.085
かかりつけ薬剤師の有無(無し)	0.218	0.292~0.918	0.024
365日営業	1.450	0.815~2.570	0.207
24時間営業	1.250	0.704~2.230	0.442

【参考文献】

- 1)廣田憲威ほか、薬局のかかりつけ機能と健康サポート薬局に関する患者の意識調査、第53回日本薬剤師会学術大会要旨集、p270(2020)

第12回コミュニティファーマシーフォーラム
利益相反の開示
筆頭演者:廣田憲威

私は今回の演題に関連して、開示すべき利益相反はありません。